

組織目標評価報告書（令和5年度）

33

部局名: **AI・数理データサイエンスセンター** 部局長名 **阿部 匡伸**

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>【AI・数理データサイエンス教育推進部門】</p> <p>1-1 昨年度に開発、実施した数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)に対応した教育プログラムについて、文部科学省への申請を行い認定を目指すとともに、同教育プログラムの評価を行って、改善を図り、実施する。</p> <p>1-2 すでに認定済の数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)に対応した教育プログラムについて評価を行い、改善を図り、実施する。</p> <p>1-3 エキスパート・トップレベル人材育成について企画立案する。</p> <p>1-4 中国ブロック拠点校(広島大学)主催事業への参画、全国コンソーシアムとの情報共有を図り、本学主催のシンポジウムを開催する。</p>		<p>1-1 昨年度、各学部において開発・実施をした数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)に対応した教育プログラムについて、文部科学省への申請を行い、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)について認定を受けた。昨年度実施した当プログラムの改善案に基づき、授業開講時間や開講学期の変更、授業の追加などを行い、より履修しやすい形へ改善した。今年度も当該プログラム(リテラシーレベル、応用基礎レベル)について自己点検を授業評価アンケート等の結果等を踏まえて行い、来年度に向け授業の追加を行うこととした。</p> <p>1-2 すでに認定を受けている数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)に対応した教育プログラムの評価を行い、「数理・データサイエンスの基礎」について医学科と農学部が選択科目であったのをR5年度に必修として開講した。これにより、全学部で「数理・データサイエンスの基礎」が必修科目として開講することとなった。</p> <p>1-3 エキスパート・トップレベル人材育成については、統計エキスパート人材育成プロジェクトの研修生に新たに応募し来年度より研修を行っていく予定である。</p> <p>1-4 中国ブロック拠点校(広島大学)、全国コンソーシアムのシンポジウムや総会に参加し情報共有を図っている。本学主催としては、3月22日にAI・数理データサイエンス教育シンポジウムを開催し、岡山県内大学等のAI・数理データサイエンス教育に関する情報交換を行うとともに、連携強化をはかった。</p>
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>【サイバーフィジカル情報応用研究推進部門】</p> <p>2-1 AI・数理データサイエンス応用研究に関して、学内における異分野間の研究交流を図り、関連研究者による学内外との共同研究や外部資金の獲得を促進する。</p> <p>2-2 学内研究者に対して、AI・数理データサイエンス応用研究のための計算資源や情報交換基盤を提供する。</p> <p>2-3 学生に対して、実社会における課題に対するプロジェクトベースの教育の場を提供し、AI・数理データサイエンス分野での実践的教育を行う。</p>		<p>2-1 学内における異分野間の研究交流の場として、Cypher研究会を計10回開催し、人文系4名、医歯薬系6名を含む計20名が登壇した。また、岡山大学AI研究会を計2回共催した。学内外との共同研究や外部資金の獲得の推進に対する成果として、所属教員による学内異分野共同研究8件、外部資金獲得19件(総額計77百万)を含む計28件の共同研究が今年度実施された。ただし、今年度は予算不足により学内研究助成を実施できなかったことから、来年度以降の研究交流・支援活動について見直しを検討した。</p> <p>2-2 全学共用計算機としてGPGPUサーバを提供した。学内研究者への情報交換手段としてTeamsチームを運用するとともに、メーリングリストにより情報提供を行った。さらなる情報交換基盤の活性化に向けて検討を行った。</p> <p>2-3 Cypherを窓口とした画備システムズおよび株式会社クラレとの共同研究により、学生にPBLの場を提供した。また、岡大DS部の「防災データサイエンス」など多数のAI・データサイエンスに関連するプロジェクトに対して、技術的助言や活動スペース提供などによる支援を行った。</p>
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>【データサービス推進部門】</p> <p>3-1 マイクロステップ・スタディの基盤を活用したメディア広告枠として、広告の色合いの強い「メール広告」と呼ぶ枠を新たに設け、より学生に直接的なメリットを提供できる企業広告を掲載することで、広告収入を増やす。</p> <p>3-2 メールメッセを通じて、地元企業と学生の接点をより具体的に設けるために、メールメッセ、メール広告に出稿している企業を中心に、「メールテーブル」と呼ぶ食事イベントを開催し、企業と学生が交流する場を設ける。</p> <p>3-3 マイクロステップ・スタディを無償で他大学に提供すると同時に、メールメッセの配信対象を増やすことで、広告収入を増やし、マイクロステップ・スタディの運用費の一部を賄えるようにする。県内の大学に打診し、「グローバル人材の養成」と「データサイエンスの機能強化」を目的に、大学間連携を進める。</p> <p>3-4 マイクロステップ・スタディの導入を高校、大学で進めるとともにTOEICや英検、各種資格試験の得点データの提供を求め、それらのデータとマイクロステップ・スタディの学習状況データ及び各種心理尺度データを本学と共同研究を行う他大学の研究者に提供する。</p>		<p>3-1 マイクロステップ・スタディ(MSS)の基盤を活用したメディア広告枠として、新たに3つの広告枠を設け、それぞれモデル的な広告を実際に掲載し、4社から年間8件の契約を締結し、2,772千円の広告収入を得た。(対前年度+1,650千円)</p> <p>さらに、地域創成のメディアとして大きな可能性を持っている地方自治体が都市部の大学生に向けて情報発信を行う自治体枠の導入の準備を行った。</p> <p>3-2 「メールテーブル」を、教育学研究科に令和7年度開設予定の「教育データサイエンス学位プログラム」の「クロスラボ」に拡大発展させることに方針を変え、クロスラボの開設に焦点化した活動を行った。すなわち、地元企業と学生のリアルな接点となる場としてのクロスラボの情報発信の基盤として、メールメディアを利用できるように準備を進め、2024年3月9日のクロスプログラム・シンポジウムにおいて紹介した。</p> <p>3-3 東京の私立大学の1学部(400人)で、令和6年度からマイクロステップ・スタディとセットで、広告研究のプラトフォームとして利用することに内諾を得た。広告効果の測定にはメールメディアの自治体枠を割り当てる予定である。</p> <p>3-4 MSSのアンケート調査システムを利用し、企業バナー広告の配信に対応して、当該企業に対するイメージや好意度等の評価データを学習者から計画的に集約し、世界で初めて、2か月にわたる縦断的広告効果測定を実現した。その結果、広告の配信回数に対して、評価者の企業イメージが有意に変化する結果等、非常に興味深い事実が明らかになった。</p>
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
⑤センター・機構等業務	関連する 中期計画の番号	センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>5-1 年度初めにキックオフミーティングを開催し、各部門の前年度の反省点及び新年度の活動計画・目標等を発表・共有することにより、3部門が連携してデータ活用を推進する体制を整備する。</p> <p>5-2 センターの事務については、教育推進部門は学務企画課が、研究推進部門は研究協力課が、データサービス推進部門は教育学系事務部が分担して所掌しつつ、センター全体の業務は学務企画課が取り纏める体制としており、3部門が有機的に連携しながら業務が滞りなく行われるようにする。</p>		<p>年度初めに、キックオフミーティングを開催し、各部門の前年度の反省点及び新年度の活動計画・目標等を発表・共有することにより、3部門が連携してデータ活用を推進する体制を整備した。また、11月には中間報告会を行って、目標の進捗状況について情報共有するとともに後期の計画についての意識合わせを行った。</p> <p>センターの事務については、各部門の各事務部が分担して所掌しつつ、センター全体の業務は学務企画課が取り纏める体制とし、3部門が有機的に連携して業務が滞りなく行われるようにした。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。

(※該当がある場合のみ) 昨年度の指摘事項に対する取組状況

改善を要する点	
対応状況	